

第8回 同窓生の集う会を開催します



8th in HOKKAIDO

HIT ALUMNI SINCE 1976

2008.8.30 (SAT) PM 7:00 ~

会場 ルネッサンス サッポロ ホテル
札幌市豊平区豊平4条1丁目1番1号
TEL (011) 821-1111

八戸工業大学同窓会の第八回「同窓生の集う会」を、平成二十年度は北海道札幌市で開催いたします。同窓会本部が主催の集う会が北海道で開催されることは今回がはじめて。八戸から多数の教職員が参加する予定ですので、今まで北海道で開催されていた総会に参加したことがない同窓生の方々も、是非この機会に大勢お集まりください。教職員一同心待ちにしております。

八戸工業大学同窓会の最大のイベントが
北海道で開催されます！

HIT Alumni Association Journal
八戸工業大学 同窓会報

第13号

3月・9月発行

八戸工業大学

同窓会本部事務局

TEL:0178-25-8027

FAX:0178-25-6183

参加予定教職員一覧

庄谷 征美 学長

藤田 成隆 学長補佐（電子知能システム学科） 福井 俊夫 学長補佐

福士 憲一 学務部長（環境建設工学科） 野田 英彦 入試部長（機械情報技術学科）

鈴木 寛（機械情報技術学科） 佐藤 松雄（機械情報技術学科）

横地 弓夫（電子知能システム学科） 佐藤 正毅（電子知能システム学科）

坂尻 直巳（環境建設工学科） 竹内 貴弘（環境建設工学科）

渡邊 正朋（建築工学科） 伊藤 敬一（建築工学科） 毛呂 眞（建築工学科）

苫米地 宜裕（システム情報工学科） 清野 大樹（システム情報工学科）

伊藤 幸雄（生物環境化学工学科） 村中 健（生物環境化学工学科）

細越 寿則（生物環境化学工学科） 梅津 光男（感性デザイン学科）

他多数

同日18時より講演会の開催も
予定しております。詳細は後日
同窓会ホームページにてお知らせ
いたしますので、是非講演会
もあわせてご参加ください。

支部会・分会も続々と開催されます！！

秋田県支部総会

●開催日時：

平成20年6月28日（土）

午後6時30分

●会場：協働大町ビル

秋田市大町3丁目2-44

TEL 018-863-2111

●会費：5,000円

※お問い合わせ 明珍 勲 氏

E-mail: myouchin@io.ocn.ne.jp

東北支部総会

●開催日時：平成20年7月19日（土）

1. ボーリング東北支部大会

午後3時～ 仙台プレイボーリング（5F）

仙台市青葉区中央4丁目1-3

TEL 022-227-7002

2. 懇親会

午後6時～ ホテルリッチフィールド仙台

仙台市青葉区国分町2-2-2

TEL 022-262-7755

※お問い合わせ 奈良坂 進 氏

E-mail: narasaka.susumu@jp.panasonic.com

シビル会幹事会・総会

●開催日時：平成20年8月2日（土）

午後6時より幹事会

午後7時より総会

●会場：八戸グランドホテル

八戸市番町14番地

TEL 0178-46-1234

※お問い合わせ

シビル会事務局（本誌8項）又は

環境建設工学科 鈴木拓也まで

E-mail: tsuzuki@hi-tech.ac.jp

電子知能システム学科 水交会ニユース

研究室探訪

ほとんどの方にははじめましてになると思います。平成十八年度に電子知能システム学科に採用された花田です。昨年度卒業した学生、院生の皆さんお久しぶりです。いかがお過ごしでしょうか。

私の専門は電力系統工学で、研究の内容は一般家庭や業務用ビルといった電力需要家内における電力使用実態の調査とニューラルネットワーク応用です。そのほか、風力発電をはじめとする自然エネルギーに興味があったため、これらに係わるマイクログリッドの実証試験が行われている八戸には行きたいと思っていました。

大学に採用されてからは、主に家庭の電力モニタリングと省エネルギーに関する研究を行っており



同窓生としての抱負

就職先：株式会社明電舎

中田 貴宏 さん
平成20年電子知能システム学科卒



花田研究室

花田先生（左から二人目）と研究室内の学生たち

平成十九年度は三名の卒研生を指導しています。省エネルギーに興味がある方は気軽にご連絡ください。何らかのお手伝いができるかもしれません。

まだまだ未熟なところも多いと思いますが、教育・研究ともがんばっていきたいと思いますので、今後もしよろしく願います。

大学四年間はあっという間に過ぎた気がする。大学では専門分野を幅広く学び、自宅では資格取得に向けた学習をした。もちろん、学友との交流やアルバイトもたくさんした。

私は、自主的に学習するほうではなかったが、以前よりもするようになった。それは、大学という自己責任に任せられる場所で社会

OB・OGだより

皆川 琢麻 さん
平成18年電子知能システム学科卒
（信山研究室）



現在：アルバックテクノ株式会社
茅ヶ崎CSセンター

皆様いかがお過ごしでしょうか。私は現在神奈川県茅ヶ崎で毎日仕事に明け暮れています。大学時代のゆるい生活とはうって変わって日々胃が痛くなるような責任ある仕事をしています。大学時代と比べて白髪もうんと増えました。私の仕事は、カップラーメンの作り方から、半導体（SRAM、DRAM、次世代プロセスの半導体）、FPD関

に出る準備をすることにより、自助努力の重要性を認識したからだ。それもこれも、八戸工業大学のような雑音の少ない大学で学習することが出来たからだと思う。社会に出てからは、なおさら自助努力が必要になってくると思う。

八戸工業大学で学んだ知識を更に磨き人間として一回りも二回りも成長できるように頑張りたい。



現在：株式会社山川建設 建築部長

馬場 亮泰 さん
昭和53年電気工学科卒
（佐藤研究室）

連（液晶、有機EL、FED、SED、次世代プロセスのFPD）まで幅広く、深くプロセスを知っていないければ仕事になりません。今も大変苦労していますし、学生時代より社会にでてからの方が勉強しています。そういう応用知識を自分に取り入れられるのも大学時代に得た基礎知識がある為だと思います。私は決して優秀ではありませんでしたし、何かに秀でた学生でもありませんでしたが、四年の卒業研修では今までの自分を見返す為に必死で色んな事を勉強しました。そこからは常に自分自身との勝負でした。今後も、「根性！」と「完璧だ」と思ったらそこがスタートライン」をスローガンとし、私の名の通り切磋琢磨し、次のステップへと繋がる「タイムミン」を確実に掴んでいきたい。そう思っています。

学生時代の四年間は、八工大の名を世間に認知してもらうための行動をしていました。三年で学友会会長、学園祭で中島みゆきを呼び、市内で神輿を担ぎ、同好会二十団体程部に昇格させ、今では邪魔な石碑を残し、三年から四年へとばらばらだった電気工学科の学生が何故か一体化して盛り上がり、卒業アルバムまで作ったのでした。

皆さんのこれまでの投稿文を目にし、思うように進まぬ現実にもめげず突き進んでいる様子が伺えられました。私の卒研は、全く別世界の魚の論文でした。つり、ダイビングを繰り返して、指刺されながらもデータ取りの毎日でした。でも今では、建設業と全く違う仕事についています。大学も創立三十年を超え、世に送り出した学生は一人を越えていると思います。それなのに、一人として世間で会った事がない。都会の何処かに居るはずなのに、誰とも企業で会えない。もっと横の繋がりを多方面にも持ち、情報交換をしないといけない。私も、八戸の生れです。帰省する度、活気の無くなる街を見て「何とかしなくては」と毎回思うのです。卒業生達の技術力、想像力をもっともっと増幅させる為にも、大学と企業を現実的視点からも結びつけ、地元にとっても活力になるよう、本気で考えましよう。

システム情報工学科

うみねご会ネットワーク

松坂知行先生退職、尾崎康弘先生定年

システム情報工学科の発展を

祈念して

松坂 知行



いつの間にか齢七十歳を迎え、

この三月で定年退職することになりました。本学を草創期から知る教員としてはやはり感無量であります。就任した時は、三十四歳でしたから学生にとっては一寸大きいお兄さん、今は一寸若い〇〇〇さんというところでしょうか。

本学の建物は、赴任したとき本館しかありませんでした。その本館に一年間、その後電気工学専門棟に十六年間、平成元年情報工学研究所棟が完成し、爾来ここに十九年間、合計三十六年を過ごしたことになります。

この間、最も注力したのはシステム情報工学科の開設計です。システム情報工学科の設置は平成九年の理事会で決定され、翌平成十年四月、当時の文部省に開設を申請

しました。その後、何度か文部省の面接諮問を経て、同年十二月に開設が認められた。したがって正式の学生募集は翌年一月のセンター入試からです。しかし、募集期間が短かったにも拘わらず、センター入試、筆記試験に多くの志願者が集まり、定員を超える一期生を選抜できたときは、責任者として安堵した次第でした。

この三月、七期生を送り出すことになりましたが、学生達と一緒に私も卒業することになります。本学を去るにあたり、手がけた学科が益々発展するよう祈っています。

定年を迎えて 尾崎 康弘



私が、初めて八戸へ来たのは、北海道大学の博士課程二年（昭和四十六年・一九七一年）のときでした。今の八戸駅（当時は、尻内駅）に降りて、「何にもないところだ

なあ！」というのが第一印象でした。すぐに建築途中であった大学の現場へ案内して貰いました。現場は、野原に太い柱が何本も立っていただけでした。

昭和四十八年（一九七三年）に本学へ赴任し、一般教育部数学教室（昭和四十八・平成六）・情報システム工学研究所（平成六・十一）・システム情報工学科（平成十一）と移動し、現在に至っています。

人生は、人と人の出会いです。私はこの大学を通して多数の人達と出会いました。本学の教職員・教育者・研究者・学生・その他の人々……

学生諸君とは、数学関連の授業を通して出会っています。また、数学ゼミナール・卒業研修・学科担任・大バドミントン大会・野球部などを通じた出会いもありました。

卒業研修では、研修途中の状況で、東北数学教育学会での研究発表を実行させました。この発表を通して様々な出会いをしました。皆、楽しい思い出の一つになっています。

人は、人と出会い群れを創る。同窓生諸氏もおの独自の群れを創り、その中で大いに活動して下さい。

最後になりましたが、八戸工業大学に関連する人々の健康と活躍を祈ります。

OB・OG近況報告

○泉山久子：平成十八年度卒業

（マックスバリュ東北㈱）

私はマックスバリュ東北株式会社という会社で働いています。ご存知の方も多いかと思いますが

主に東北でスーパーのチェーン店を経営している会社です。現在は弘前の店舗で主にレジやサービスカウンターで接客をする部門に携わっています。新人のうちは現場でチーフや店長を経験してから本部スタッフやバイヤー、トレーナーなどになることができます。

入社して約一年、基本からチーフになるための仕事まで様々な仕事を覚えてきました。見知らぬ土地で働くのは初めは大変でしたが、同期の社員や同じ店の従業員の方々がとても仲良くしてくれるので楽しく働いています。早くチーフになれるようにこれからも頑張っていこうと思います。

学科オフィシャルブログの紹介

URL <http://blog.info.hi-tech.ac.jp/>

システム情報工学科では一年ほど前より「システム情報工学科オフィシャルブログ」を始めました。学科教職員が学園祭や学会発表、資格取得などの学生の活躍、学科に関する出来事を掲載しています。現在の学科の様子が良く分かりますので是非見に来て

○坂頂みなみ：平成十八年度卒業（プリンスアイスワールド）
私は昨年四月より、プリンスアイスワールドというアイスショーのチームに所属し、プロスケーターとして活動しています。競技者として続けてきたフィギュアスケートを大学卒業と同時に引退し、プロの道へ進みました。

アイスショーの世界には、競技会とは違う雰囲気や華やかさがあります。楽しく仕事をさせて頂いています。プロデューサーを始め、衣装、メイク、音響、照明、映像などを施してくれる多くのスタッフと共に、一つのショーを作り上げていく事がとても新鮮で、メンバーの一員として氷の上に立ち、お客様に観て頂く事に大きな喜びを感じています。

皆様に夢と希望を与えられるようなショーを目指し、これからも頑張っていきたいと思っています。

環境建設工学科 シビル会通信

田中昇先生最終講義

田中昇先生が、本年三月末をもって定年退職されることになり、最終講義が平成二十年一月十五日（火）に環境建設工学科において開催されました。最終講義は「人、ことばとの出会い」と題し、学生時代に出会った研究の恩師との思い出、および本学に赴任されてからの職員や学生との思い出に關して田中先生らしい機知に富んだ講演をしていただきました。

先生は大学創立直後の昭和四十八年に赴任され、現在に至るまでの三十五年間多くの技術者の育成にご尽力され、かつ要職を歴任するなど大学の発展に貢献されてきました。先生の教育・研究に取組む姿勢は、我々教職員の手本であり様々なことを教えていた



いただきました。ご退職後は、趣味のウォーキングを活かし、四国巡礼を楽しみにしていると伺いました。学生に負けないその若々しさを教員一同見習いたいものです。今後とも密会などでお会いできることを楽しみにしております。

最終講義後の夕刻、先生と事務職員の高橋恵子さんを囲む会が開催されました。本学科関係者やご退職された佐藤敦久先生、須田熙先生、杉田修一先生にもお越し頂きまして盛大に行われました。

◆退職：高橋 恵子さん



環境建設工学科第二十九期生の卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。四年間でいろいろな経験や、体験を積んできた事と思います。それらの経験を

生かせる人も又、未知の分野で活躍する人も、すべて同じスタートラインからの出発です。社会に一步步踏み出すと楽しいことばかりではないかもしれませんが、まずは、自分を自分らしく輝かせていける人に、決断して人と比べる必要もなく、今いるところで、精一杯、誠実に真心から周囲の人たちに接して行けば自ずと、信頼を勝ち取るものです。人に勝つことよりも、自分に勝つことほど難しいことはありません。人間誰しも、その人でなければ出来ない使命の道があります。自分の使命を自覚すれば、そこに希望が生まれます。自分に負けない勇気を持って、船出をしてください。ともあれ、ここまで、育んでくださった、お父さん・お母さんに「ありがとう」の感謝の言葉を伝えましょう。生涯、親に心配をかけないのが、親孝行です。いつまでも、お父さん・お母さんを大切に！そして、お体を大切に！お元気で、グッドラック。

会長には、夏堀大司さん（五期）が満場一致で選出されました。今後は、夏堀さんを中心にシビル会の運営をしますが、シビル会事務局も全力で支えて行く所存です。なお、次期会長の承認は、来年度開催するシビル会総会での承認を受け正式に決定致します。

幹事会における意見交換の中で、シビル会活動に関しては、全学同窓会以外にもシビル会単独での活動を要望する意見が多数ありました。事務局としては、これらの貴重な意見を参考に今後の活動に繁榮させていただきます。

また、シビル会を三十年間支えて頂いた一期生を中心とする卒業生の皆様、これからもご指導・鞭撻のほどお願いします。



夏堀 大司 さん
局も全力で
支えて行く
所存です。
なお、次期
会長の承認
は、来年度
開催するシ

土木学会認定 2級技術者試験に4名合格！

十月二十一日（日）に行われた二〇〇七年度土木学会認定二級技術者資格審査に環境建設工学科四年生四名が合格しました。学園祭や研究等が重なりとても忙しい中、頑張ってくれました。なお、この認定技術者資格制度は、倫理観と専門的能力を有する土木技術者を評価し、これを社会に對し責任を持つて明示することを目的に設立したものです。「二級技術者」に求められるのは、土木技術者として必要な基礎知識を持ち、与えられた任務を遂行する能力を有することです。



シビル会幹事会開催

平成二十年一月二十六日（土）に、平成十九年度シビル会幹事会を開催しました。幹事会には二十三名の卒業生及び教員が集まり盛大に行われました。東京、宮城、秋田、函館など遠方からも参加していただきました。幹事会では、次期シビル

会々長選出、次回のシビル会総会日程、シビル会の活動に関する意見交換を行いました。次期シビル会会長に關しては、岩館則彦シビル会々長（一期）はじめとする一期生よりシビル会で三十年近く活動しており、そろそろ世代交代の時期ではないか、また同窓会を新しい形にしたいなどの要望があり実現したものです。次期



機械情報技術学科

蒼峰会だより

工業英語と

ウォーキングの取り組み

町屋 昌明

二〇〇一年に総合教育センターが解体され、当時の機械工学科に配属になり、早七年が過ぎました。英語担当の私が専門学科に所属し最初はとまどいましたが、専門分野に優れた先生方や研究に意欲的な学生たちとの交流を通して、いろいろな面で刺激を受けました。今では機械科に所属できたことに大変感謝しております。

さて私が継続して取り組んでいることの一つに「工業英語」があります。「世界で戦えるエンジニアの育成」をテーマに二〇〇一年から正式に取り組み、工業英語検定試験の受験者数が二〇〇一年と二〇〇二年には全国一位になりました。今年度も多くの学生が受験し、数十名が合格しています。

さらに、英会話の実践力を強化するために海外語学研修（希望者対象）を実施しています。おかげさまで私の講義の希望者が多く、中でも機械科学生が多く、彼らは積極的に学んでいます。また二〇〇六年には我が大学における工業技術英語への取り組みを日本工業英語協会主催の『理工系・学

部・学科における「工業英語」導入事例発表会』において発表する機会を頂きました。これからも英語科担当の先生方と協力し継続して取り組んでいくつもりです。



ところで、私が本大学に採用されてから継続して取り組んでいることの一つに「ウォーキング」があります。物質文明が発達し、生活が機械化されればされるほど、人間の体力や機能が衰退していくことは、いろいろな研究者が指摘する通りです。特に日々の学生と接していて現代の若者の体力・気力不足は深刻だと痛感します。私の本来の研究テーマである英国の詩人「ワイリアム・ワーズワース」は湖水地方を歩いて詩作した人物で、「私の書斎は、外である。」と言っています。学生時代には、若



い血潮に動かされて友人と欧州をめぐる約三カ月半の徒歩旅行を実行しているのです。私は、三十代のころ尊敬するある先生の「ワーズワースを真に理解するには、君自身が歩かなければ分からないだろう」という一言によって運命が変わったといっても過言ではありません。それまでは、どちらかというと書籍中心の研究からそれ以降は自分が歩くこと、体験することによって理解する、研究するというアクティブな姿勢が身についてきました。

こうした自分の体験から、学生にも実際に道を歩いて自然を体感するため、自己の可能性を発見するため、気力・体力を向上させるため、大学時代の思い出作りのため、湖水地方を歩いて書いたワーズワースの作品理解のためになどいろいろな目的をもとに学生を説得し、十和田湖一周五十キロウォークに希望者を募り参加させる取り組みをしました。

このウォークは、午前五時にスタートし、子の口、御鼻部山、大川岱の三箇所にある休憩所を兼ねたチェックポイントに立ち寄り、足型のスタンプを押して、ゴール

に向かうというもので、距離が長い上コースの中に標高差六〇〇メートルの山を登り降りしなくてはならずとてもハードなコースなのです。それでも参加者たちは、湖や渓谷を眺めたり、森で鳥のさえずりを聞いたり自然を楽しみながら、自分たちのペースで歩いて完歩するのです。一時期は、バス三台百五十名以上の学生が参加したこともあり、前学長や前学生部長など複数の職員の方が参加したこともありました。参加した学生は、「歩いている途中で足が痛くなったり、まめができたりするのは当たり前。ゴールした時は、もう二度と歩きたくないと思うのですが、しばらくすると充足感や達成感がわいてきて、また挑戦したくなります。」「歩くことで普段見えない大きなことが見えてくるから、これからもウォーキングを続けていきたい。」という感想が聞かれます。こんな感想を聞くと、本当にうれしくなります。来年度は、同じ学科の工藤祐嗣講師がウォーキング愛好会の監督をして下さることになり、大変心強く思っています。ロボットの性能が発展し、走ったり踊ったり、人間の介護をしたりすることが可能となっている昨今であります。学生とともに文武両道の向上を目指して、退職までのわずかな年限を有意義で思い出深いものにしたいと念願しています。

「退職にあたり」

工作技術センター

仲道茂生

昭和五十三年四月より、八戸工業大学機械科（産業機械）に勤務、平成二十年三月末で二十九



年勤め上げれた事に卒業生を始め、教職員・在学生の皆様方に心よ

りお礼申し上げます。

昭和五十年代は学生数も多く、機械科で一年百五十名を超えた時代も有ったと思います。各方面に就職し、それぞれの職業で活躍の事と思います。

今は工作実習工場も、名称「工作技術センター」と平成六年四月より機械工学科から分離、改名になって、初代の所長は鈴木幸二先生でした。現在はM学科長と兼任で齋藤正博先生が所長です。

長年「物づくり」に携わり思う事は、「物事の基本」が第一番に來ます。基本の型を身につける事に付きます。学校は基本と応用の仕方を習うところ、発展するのが自分次第で卒業生の皆さんは身に染みてると思います。同窓生の皆様方の益々のご活躍を祈り、感謝申し上げます。

私事、四月からの応用の難しい家内が待っています。

建築工学科 拓北会

拓北会 事務局より

皆様お元気でお過ごしでしょうか。
建築工学科同窓会

拓北会 事務局です。

「HITA2010

イベントについて

二年後の2010年に建築工学科は三十五年、拓北会は三十年を迎えます。拓北会同窓生は今年の卒業生も含めると二千八百七十名を超える会員数となっております。日時・イベント内容などの検討はこれからになります。皆さまのお力でこのイベントを成功させることが出来そうです。2010年という年をお忘れなく！

連絡網、イベント共に協力いただける方は事務局までご連絡くださいませ。



拓北会ホームページアドレス

<http://www.archi.hi-tech.ac.jp/takuhoku/>

拓北会メールアドレス

dosokai-a@hi-tech.ac.jp

澤田紘次先生の 最終講義

二月一日(金)に、本年度で退職される澤田紘次先生の最終講義が行われました。

「私的住み方の記」

「家屋、断熱、暖房、室内環境の変遷」と題して、澤田先生がこれまで住んできた十二ヶ所の生活体験をもとにした室内環境の変遷のお話でした。普段の授業と違い、澤田先生曰く「漫談のような」、随所に直筆のスケッチが盛り込まれた講義は笑い声の聞こえる楽しい講義となりました。当日は卒業生も多く駆けつけました。

卒業生からのメッセージ

30年ぶりの講義、とてもなつかしかったです。

いつまでも若さを忘れずこれからも頑張ってください。

中村章(2回生)

長い間お疲れ様でした。私が結婚した時に頂戴したチューリップ、まだ庭で咲き続けています。フェデラーやナダルの様にはいかにしても、またいつか、コートで御一緒出来ればいいな、と思います。これからもお元気で。

佐々木正春(3回生)

長い間、お疲れ様でした。大学に行けば先生にいつでも会えると思っていたので残念です。今後も健康に留意して、楽しくお過ごしください。

小幡千裕(16回生)



まずは、31年間の教育研究生活、大変おつかれ様でした。私も縁があり、教壇に立っているわけですが、先生に教えていただいたことが現在役立っており、大変感謝しております。これからも多々教えていただくこと、ご質問することがあると思いますが、今後とも宜しくお願いします。本日はありがとうございました。

岩崎有喜(21回生)

建築工学科教員 ラジオ出演

BeLME毎週水曜日11:30からの番組「おんであんせ」に建築工学科の教員が出演し、「お母さんのための出前講座」と題して話をしました。この「お母さんのための出前講座」は建築工学科のことを一般の人たちに知ってもらうと建築工学科の教員がテーマを出し合い、申し込みがあればいつでも出かけて行って講演を行う企画です。BeLMEの番組では、この「お母さんのた

建設業応援隊実施中！

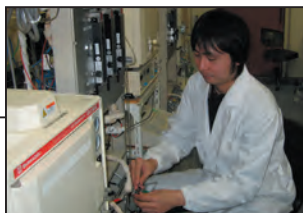
昨年十月より、建築工学科では「建設業応援隊」と題して、建設業の方々が日々直面する様々な技術的問題に対し、その解決協力させて頂くという企画を行っています。建築の各分野の専門家として、微力ながら地域の発展に貢献させていただきたい、という活動です。些細なことでも構いませんので、相談事などありましたら、建築工学科までご連絡ください。(HP参照)

八戸工業大学学会通信

「大学での研究を通じて」

鎌田佳之

エネルギー工学科十八期生の鎌田佳之と申します。私は、平成十五年三月にエネルギー工学科を卒業した後、本学の大学院「機械システム工学専攻」の修士課程、さらには博士課程へと進学しました。そのため、学部時代を含めて本学には九年間も在籍していたことになりました。長かった学生生活も今春には大学院を修了し、四月からは三菱化工機株式会社勤務です。私は学部四年から現在までの六年間、福原長寿教授（現静岡大教授）の下で、小型燃料電池のためのマイクロ構造化反応器による水素製造に関する研究を行なってきました。



た。生活環境も変わり最初は戸惑うことも多くありましたが、違った環境で研究を続けることができたことは、自分の視野を広げるとも貴重な経験となりました。四月から勤務の三菱化工機株式会社は、化学プラントや環境改善設備、また産業機械の総合エンジニアリングを展開している会社です。特に最近では水素製造装置の研究開発に力を入れて取り組んでいるため、これまで私が行

なってきた研究を充分に活かせるのではないかと思います。今後は、八戸工業大学で学んだことを活かし、社会に貢献できる研究者を目指して努力していきたいと思

います。今振り返ると、私の研究は徹夜で行なわなければならない実験が多く体力的に大変でしたが、研究を進める中で興味深い発見や新しい発見も多く見つかり、学会発表や国際会議に参加する機会にも恵まれてとても充実した研究生活を過ごすことができたと思います。また博士課程の三年時には、福原教授の転勤に伴ない静岡大学へ研究生として行くことになりました。

大学院では吸収冷凍機という装置の研究に携わってきました。研究はともレベルの高いもので、学部四年間では到底学ぶことのできない内容を研究できました。卒業後は、先生の紹介で入社させていただいた企業に就職することになりました。自分を支えてくれ、迷惑ばかりかけてしまった先生方、科が違うにも関わらず接してくれた先輩、後輩達、今まで援助してくれた両親にとっても感謝し、社会に出ようと思います。



員の先生がとてもすばらしい方で、研究室の先輩、後輩にも恵まれ、無事に二年間を過ごせたことを、とても感謝しています。大学院では吸収冷凍機という装置の研究に携わってきました。研究はともレベルの高いもので、学部四年間では到底学ぶことのできない内容を研究できました。卒業後は、先生の紹介で入社させていただいた企業に就職することになりました。自分を支えてくれ、迷惑ばかりかけてしまった先生方、科が違うにも関わらず接してくれた先輩、後輩達、今まで援助してくれた両親にとっても感謝し、社会に出ようと思います。

すがに十四年の間にはいろいろとありました。仕事は二つほど変えましたし、結婚もして子供も出来ました。日々、バタバタと慌ただしく過ごしていたせいか、あっという間の十四年間でした。この間、同期の友達との連絡もあまり取れませんでした。我々が卒業するころは、まだ携帯電話は無く、E-mailも無い時代でした。卒業後、みんな仕事で全国に散らばると音沙汰不通になるのが普通でした。もつとも、私自身が面倒くさがり屋なため、友人と連絡とることすら無かったのですが…。全学同窓会が毎年開催されていますが、なかなか参加する人もいませんし、同期の連絡網を作ることなど半ば諦めていました。ところが二年ほど前から、私が大学にいてことを知った同期の仲間が仕事ついでに訪ねて来てくれたり、研究室に突然電話が入るようになりました。また、大学が主催する「学生と企業の懇談会」にも昔の仲間が参加してくれています。学生にも「友達がきてくれるから、会社の説明を聴いてこい」と他の会社より優先的に勧めたりしてしまっています。また、教員の立場からも安心して学生を送り込めますし、学生も先輩がいることで会社を受けようという気持ちになるようです。エネルギー工学科から生物環境化学工学科に変わっていますが、エネルギー工学科時代からの人のつながりは続いています。当時の先生方もまだまだ元気ですし、新しくなった学科を是非一度見に来て頂きたいと思います。一度失いかけた連絡網も私が大学にいてことで再構築できそうです。そろそろ確実な連絡網を作り、みんな集まっ一杯やりましょうよ。

電話：0178-25-8049
E-mail: susumu@hi-tech.ac.jp

退職教員

平成二十年三月三十一日付けで、次の方々が退職されます。

田中昇 教授

環境建設工学科

昭和四十八年より勤務



大学に勤めて三十五年、あつという間でした。多くの学生諸君と楽しく過した事、教職員の皆様に終始支えて頂いた事など、走馬灯のように思い出します。有難うございました。

渡邊 正朋 教授
建築工学科
昭和五十二年より勤務



今春、拓北会二十九期生と一緒によかちん音頭の渡邊が卒業します。留年を重ねること三十二年、齢六十六歳の卒業です。創始期の諸先輩は五十路に届く頃、今後ともよろしく願います。

「八戸工業大学大学院を卒業するにあたって」

野堀 晴樹

八戸工業大学の生物環境科学工学科を卒業し、機械システム工学専攻で研究を始めてからもう二年が過ぎようとしています。大学院に進学したばかりの頃は同学年の友達もいなくなってしまう、さらに今までとは違う学科の研究室で研究を行うことになり、とても不安でした。ですが大学院の指導教



八戸工業大学教員 高橋 晋

「エネルギー工学科卒九期生、ついでに後輩」にむけて

エネルギー工学科九期生（平成六年卒）の高橋晋です。現在は、本学の生物環境化学工学科の教員をしています。卒業してから十四年経ちました。まだまだ若い（つもり？）ですが、さ

すがに十四年の間にはいろいろとありました。仕事は二つほど変えましたし、結婚もして子供も出来ました。日々、バタバタと慌ただしく過ごしていたせいか、あっという間の十四年間でした。この間、同期の友達との連絡もあまり取れませんでした。我々が卒業するころは、まだ携帯電話は無く、E-mailも無い時代でした。卒業後、みんな仕事で全国に散らばると音沙汰不通になるのが普通でした。もつとも、私自身が面倒くさがり屋なため、友人と連絡とることすら無かったのですが…。全学同窓会が毎年開催されていますが、なかなか参加する人もいませんし、同期の連絡網を作ることなど半ば諦めていました。ところが二年ほど前から、私が大学にいてことを知った同期の仲間が仕事ついでに訪ねて来てくれたり、研究室に突然電話が入るようになりました。また、大学が主催する「学生と企業の懇談会」にも昔の仲間が参加してくれています。学生にも「友達がきてくれるから、会社の説明を聴いてこい」と他の会社より優先的に勧めたりしてしまっています。また、教員の立場からも安心して学生を送り込めますし、学生も先輩がいることで会社を受けようという気持ちになるようです。エネルギー工学科から生物環境化学工学科に変わっていますが、エネルギー工学科時代からの人の

松坂 知行 教授

システム情報工学科

昭和四十七年より勤務

尾崎 康弘 教授

システム情報工学科

昭和四十八年より勤務

竹園 洋子 教授

生物環境化学工学科

昭和四十七年より勤務



開学と同時に赴任し、ここまで来ることができましたことを深く感謝致しております。八戸工業大学の更なるご発展と、同窓生の皆様のご健勝、ご活躍を祈念申し上げます。

澤田 敏次 教授

感性デザイン学科

昭和五十二年より勤務



八戸工業大学で三十一、この三月で卒業生を二十九回出し私の研究室の卒研生は二百七十八人になります。いろいろありがとうございました。お互い身体に気をつけて、元気で頑張ろう。

仲道 茂生 工師

工作技術センター

昭和五十三年より勤務

高橋 恵子 主事

事務部庶務課

平成十年より勤務

藤田 一枝 助手

建築工学科

昭和五十五年より勤務



このたび、建築二十八回生と共に巣立つ?ことになりました。これまで、卒業生・在校生の皆様からたくさんの元気を貰い私の今があります。ありがとうございます。お元気で!

これまでのご厚情ご指導に感謝申し上げますとともに、今後のご健勝とご活躍を祈念いたします。

第七回同窓生の集う会

開催報告

第七回同窓生の集う会が十一月十日(土)に同窓生や教職員など合わせて百八十名以上が参加して八戸グランドホテルにて開催されました。

今回は学匠会(エネルギー・生物環境化学工学科同窓会)とうみねこ会(システム情報工学科同窓会)が企画・運営し、二部構成で行われました。

第一部の記念講演会では、はじめに白川直人同窓会会長の挨拶があり、続いて生物環境化学工学科教授の小山信次先生による講演が行われました。「ホタテ貝殻セラ

ミックスの機能性を応用した製品の開発」の演題で話され、テレビなどで取り上げられる事も多く注目度の高いテーマのため、当初用意した座席数を超え途中で椅子を追加するほど多数の聴衆を集め、うれしい誤算となりました。

その後、会場を移し記念撮影をはさんで第二部の懇親会に入り、浜部弘毅実行委員長、庄谷征美学長の挨拶に続き、荒谷一豊学匠会会長の乾杯で懇親に移りました。

懇親会では、吹奏楽部の演奏、少林寺拳法部の演舞、さらに教員からのビデオレターの上映など多彩な催しを挟みながら、懐かしい仲間、教職員、先輩・後輩と共に約二時間歓談を楽しみ大変盛り上がりしました。最後は校歌斉唱の後、齊藤克治うみねこ会会長の首頭



で中締めとしました。集う会は盛会裏に終了いたしました。参加いただいた皆様にお礼を申し上げます。次回は八戸以外の開催地として初めて北海道で開催予定です。特に北海道在住の方には多数ご参加いただきたいと思っております。

同窓会事務局の連絡先(各種連絡先としてご利用ください)

本部事務局(学務部学生課)
TEL: 0178-25-8027

E-mail: dosokai@hi-tech.ac.jp

機械工学科・産業機械工学科・機械情報技術学科(機械情報技術学科事務局)
TEL: 0178-25-8010

E-mail: dosokai-m@hi-tech.ac.jp

電気工学科・電気電子工学科(電子知能システム学科事務局)

TEL: 0178-25-8020 E-mail: dosokai-e@hi-tech.ac.jp

土木工学科・環境建設工学科(シビル会事務局)

TEL: 0178-25-8067(8030) E-mail: dosokai-c@hi-tech.ac.jp

建築工学科(建築工学科事務局)

TEL: 0178-25-8040 E-mail: dosokai-a@hi-tech.ac.jp

エネルギー工学科・生物環境化学工学科(生物環境化学工学科事務局)

TEL: 0178-25-8050 E-mail: dosokai-p@hi-tech.ac.jp

システム情報工学科(システム情報工学科事務局)

TEL: 0178-25-8080 E-mail: dosokai-i@hi-tech.ac.jp

同窓会事務局から

▼ご家族の方へ

本誌同窓会報をご家族の方が見て同窓生本人が見ていないことがあるようです。お手数ですが、ご子女に了承いただき同封のハガキにご子女現住所等必要事項をご記入のうえ、ポストへご投函下さるようお願いいたします。

▼同窓生の皆様へ

会報が届かない、見たことがないといった同窓生がおりましたら、本部事務局まで、電話またはメールで送付先(氏名、現住所、学番号または卒業年科)を連絡するようお願いいたします。また、現住所等変更になりましたら、速やかに同窓会事務局までご連絡下さるようお願いいたします。